資源環境経済学特別演習 II 議事録（12 月）

２０１１ 年 度 第 １１ 回

報告題名　揚子江中流域における生態農業の発展とその課題 **―湖北省潜江市の稲蝦連育を対象として**	
報告者　易　思（い　し） (**所属分野**)国際開発学分野　M2	**日時**　12 月 22 日　午後３時～ **場所**　第二講義室
座長　宮里かつ代	**議事録担当者　渋谷俊**

出席者

長谷部、安江、小山田、米澤、冬木、高篠、伊藤、石井、阿部、スチン、八木、水木、宮里、易思、威廉、王、北村、金、滝田、タンボウニ、中村、堀、林、泉井、金、黄、今井、渋谷、畠山、室井、ナスンムンク、徐、趙、劉、王偉、池畑、伊坂、伊藤、西田、門馬

報告要旨

中国は古来より農業国であり、中国の農業は長い歴史にわたる実践の中から多くの伝統が築いてきた。しかし、近年経済発展を優先させるために、これらの伝統が無視され、環境の汚染、生態の破壊などの問題が深刻化しつつある。これらの問題に対して、海外の持続可能な農業の発展を踏まえ、中国政府は１９８０年代に初めて「生態農業」の概念を提唱し、その後、「生態農業プロジェクト」が全国的に急速に展開されてきた。

本研究は、揚子江中流域に位置している湖北省潜江市積玉口鎮での稲蝦連育を対象として、実態調査と農家経済調査を通じ、その地域の生態農業のあり方と経済効果、環境効果を考察する。具体的には、潜江市統計局、潜江市水産局、潜江市小龍蝦養殖協会、湖北省「姜友余」小龍蝦養殖専業合作社、湖北莱克水産食品公司などを訪問し、聞き取り調査及びアンケート調査によるデータの分析を通じ、稲蝦連育が農村雇用、農家収入、地域経済に及ぼす効果を明らかにした。また、潜江市積玉口鎮の古城村と積玉口村の３０戸の農家調査を行った上で、その分析結果を検証した。

質疑・応答

伊藤：報告の中にあった対象地域のエビは主にオーストラリアに輸出されているのか。

易：そうです。他には主にヨーロッパに輸出されています。

伊藤：それに関する価格や数量のデータはありますか？

易：価格は低い。中国は人件費が安いので、アメリカ等に輸出しているが、詳細なデータはこれから調べます。

伊藤：つまり生態農業の発展には、最終製品のマーケットが拡大していく、または中国国内で消費市場が拡大することが必要不可欠だと思う。よって、消費市場の特徴も抑えていなくてはいけないと思った。それともう一点、今回の調査対象地で 1990 年以降、米栽培や養殖技術で大きな技術革新はあったのか。例えば、化学肥料を減らし生物農薬を使うなど、生産体系が大きく変わるようなことがあったのか。そういうものが生態農業の発展にどう影響を与えているのか。

易：以前は自然に繁殖させていたが、2006 年から人口的に繁殖させています。

伊藤：その人工繁殖でコストは低下しますか。また安定的に養殖することにつながるのか。人工養殖にすることによりどういう効果が得られるのか。そこも言及した方が良いと思います。繁殖させた親のえびは最後どうなるんですか。

易：親えびも一緒に海外などに出荷されます。

伊藤：わかりました。ありがとうございます。

石井：生態農業としてのえびの養殖が環境負荷につながることはないのか。面積の拡大や集約化が進んでいるようだが、えびに餌を上げることによって環境への影響は出てないのか。

易：あまり影響はないと思います。ザニガニが穴を掘ることによって、農地に穴があきやすい等はあると思う。

石井：水質が悪くなり、地域全体の収量が低下するなどの影響はないのですね。生態農業が地域経済・環境に与える影響は大きいと思うが、その辺も組み込んで欲しいと思う。

易：ありがとうございます。

長谷部：生物農薬の効果が遅いと書かれてあるが、どういうことか。

易：それは他の化学農薬と比べて、殺虫のスピードが遅いということです。

長谷部：コストはどうなっているのか。

易：価格は生物農薬の方が高いです。

長谷部：その高いコストが生態農業を受け入れない理由になっているのかは調べたのか。

易：これから調査していきたいと思います。

安江：１）が二つあるが、35 戸の農家を二セット調査したということなのか
易：これはそれぞれの農家の平均値を表しています。
安江：表 11 をみて、三十歳代が何人いるとかはどのように見ればいいのか。
易：それはこの表からはわかりません。
安江：35 戸の人口構成の図はどのような形になっているのか。
易：三十代は少なく、四十代が一番多い、五十代は少ない。
安江：これは経営主のデータですよね。労働力の構成についてはどのようになっているのか。
易：労働力は、収穫する時期にアルバイトを雇って行なっているので把握しづらいかもしれない。
安江：今聞きたかったことは、新しい技術の採用や環境保全に対する意識の違いが年齢階層の違いやそれ以外を要因として、どのように現れるのかを聞きたかった。そういうところを論文に組み込んでいったほうが、今回の研究テーマと目的とも合致していると思う。
易：ありがとうございました。